

総評

問題構成は昨年度同様、漢字・言葉の問題、文学的文章（物語文）、説明的文章（論説文）、古文、作文。今まで変化の無かった漢字の問題が少し減り、言葉の問題においても記述問題が出題された。長文読解問題の本文は、昨年度より読みやすい内容。特に論説文はテーマも身近で、理解しやすかったと思われる。また、記述問題に関しても、分量は昨年度同等だが、答えに本文の言葉を使いやくなっているので、解答しやすくなっている。古文も難しくないので、全体的に昨年度より易化した印象。

難易度・出題形式

【第一問】語句知識、言葉に関する問題 〈易～標準〉

漢字 12 点、語句知識（熟語・慣用句・副詞）8 点、記号選択 6 点、記述 4 点 計 30 点

問一の基本的な漢字の出題が減り、熟語及び慣用句の問題が出題された。ただし熟語とは言え、漢字を選ぶ問題であるため、大きな変化は無い。また、昨年度はふさわしい四字熟語を選ぶ問題、今年度は慣用句が出題されているので、引き続き語句の知識が求められている。昨年度は文章に入る適切な表現を考える、15字以内の記述問題が出題されたが、今年度は、資料を選んだ理由を考えて30字以内で答える記述問題が出題されており、記述問題の比重が少し増えた。

【第二問】物語文 〈易～やや難〉

記号選択 6 点、抜き出し 3 点、記述 11 点 計 20 点

記号選択問題は易しい。出題部分の前をしっかりと読み取れれば解答出来る問題で、普段から問題演習をしている生徒であれば、苦も無く選べる。記述問題は適切な表現を考えて 10 字以内で答える問題が 2 問、55 字以内で理由を答える問題が 1 問出題された。10 字以内で答える問題のうち 1 問は、本文中の言葉をそのまま使えるものではないので、ふさわしい言葉を思いつけるだけの語彙力が必要。これは普段から文章を読んで、語彙を増やしていくなければならない。最後の記述問題は「道の先の先」が何を表し、そこまで道が途切れないことから、主人公がどんな思いを抱いているのかを、文章中から読み取る必要がある。文学的文章によくあるパターンの問題なので、今までいかに問題を解いてきたかが試される問題であった。

【第三問】論説文 〈易～やや難〉

記号選択 5 点、抜き出し 6 点、記述 9 点 計 20 点

最初の記号選択問題は容易だが、最後の記号選択問題は、最終段落で述べられている内容と選択肢の言葉を正しく照らし合わせて、正解を導くことが出来るかどうかが問われた。問二は 30 字以内の記述問題ではあるが、指示語の内容を問う問題であり、前に遡って該当部分を探すという基本に則って解けば、すんなり書けたと思われる。問四の 55 字以内の記述問題は、分量があるとは言え、本文中の言葉を多く使えるので、必要なキーワードを見つけて、それを上手く組み合せれば解答出来る。ただし、キーワードを利用して文をまとめるには、技量と語彙力が必要になるため、日頃から記述問題に解答する練習を積んでおかなければならない。

【第四問】古文 〈易〉

歴史的仮名遣い 2 点、記号選択 6 点、語句補充 2 点 計 10 点

全体的に非常に易しい。本文は、最初は読みづらいかも知れないが、問題に誘導があり、そこから内容が理解出来るようになっている。昨年度は 15 字以内での記述問題があったが、今年度は語句補充になっており、昨年度よりも易くなっている。授業で古文の問題演習をしてきた生徒であれば、満点が取れる。

【第五問】作文 〈標準〉 計 20 点

「国語の乱れ」に関して、3つの意見があり、そのうち1つを選び、自分の考えとそう考えた理由を書く。昨年度は意見文だったが、今年度は、その前まで続いていた選択型に戻った。このタイプは講習会や授業でも練習をしていたので、塾生にとっては見慣れたものであったと思われる。選んだ意見をテーマとして、自分の意見をはっきりと書けているか、またその理由が明確であるかが採点のポイントとなる。200字という字数の中で、いかに端的に意見をまとめられるか、具体的な理由を書けるかというのは、練習量がものを言うので、日頃から文章を書くトレーニングをしておく必要がある。